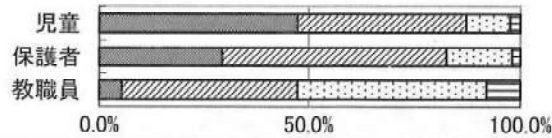


# 児童・保護者・教職員の三者比較 令和4年度 学校評価アンケート

<回答>  そう思う  どちらかと言えばそう思う  どちらかと言えばそう思わない  そうは思わない

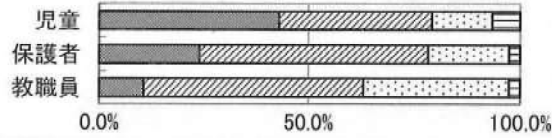
## 設問1 家族、地域の方、友達への挨拶



【設問1】挨拶について、多くの児童ができていると感じている。保護者も児童と同様に感じている。教職員は子どもたちの自主的な取り組みなど、もっとがんばれると感じている。

- 役員会のキャンペーンを中心に児童が主体的に取り組む形が定着してきた。
- ★自分からすすんで挨拶することや、学校外での取り組みにつなげていきたい。

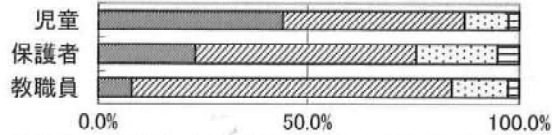
## 設問2 お互いのよさを認め合う言動



【設問2】自己肯定感については「よいとこみつけ」や「美行木」などに取り組んできたことで、自己肯定感を抱けていない児童の割合が減ってきた。更に、取り組みを進めていきたい。

- 地道に継続して取り組んできたことで、少しずつ自己肯定感もてるようになってきた。
- ★お互いのよさを認め合うことの発信により、更に自己肯定感の向上に努めていきたい。

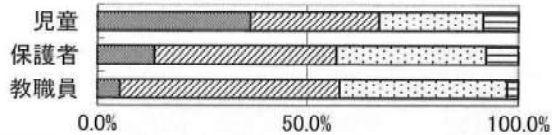
## 設問3 授業での基礎基本の定着



【設問3】学習内容の定着に不安を抱いている保護者が4分の1近くになっている。学年相応の力が身につくように粘り強い指導が必要。

- めあてのもとに学習に取り組む習慣が定着してきた。
- ★基礎基本の定着を進めるために、効果的な指導方法について工夫を進めていきたい。

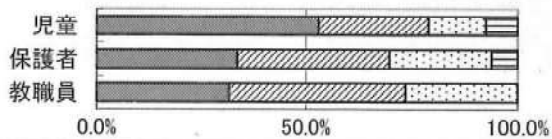
## 設問4 自分の考えをもち、学び合う授業づくり



【設問5】コロナ禍での制限が少しずつ緩和され、工事で運動場が狭いという状況ではあったが、約8割の児童がすすんで運動できたと感じている。

- 外遊びや体力づくりにつながるような体育の授業の工夫やがんばりカードを取り入れるなどの取り組みにより、児童の意識向上につながっている。
- ★児童たちの運動する機会や時間の確保をより進めていけるように工夫をしていきたい。

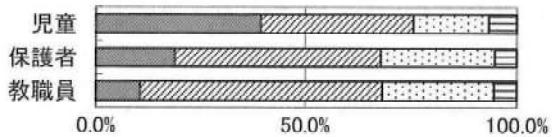
## 設問5 体力づくりへの意欲的な取り組み



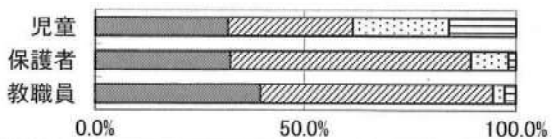
【設問7】HPの随時更新など情報発信について改善を図ってきた。知ってもらうための取り組みにも力を入れ、更に開かれた学校づくりを進めていきたい。

- 行事だけでなく、日々の学校生活の様子を発信することで、HPを楽しみにしている児童や保護者がいる。
- ★家庭や地域に学校のことを知ってもらうための発信を積極的に進めていきたい。

## 設問6 望ましい生活習慣に対する意識



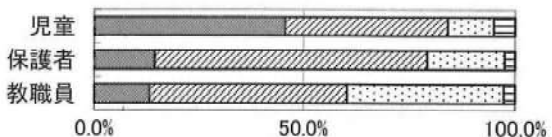
## 設問7 各種おたより・新聞・HPでの情報発信



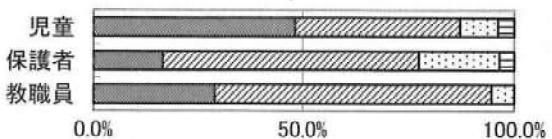
【設問9】児童・保護者と教職員の意識との間に開きがある。いじめの早期解決や相談活動など児童・保護者の心に寄り添った取り組みの充実を図っていきたい。

- 生活アンケートを家庭に持ち帰って実施することで、家庭との連携に取り組んだ。
- ★児童や保護者がより安心できるように、事後指導や面談・連絡をより丁寧に進めていきたい。

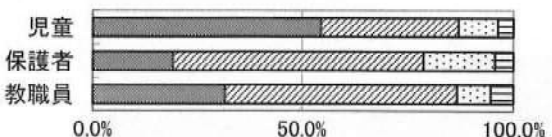
## 設問8 家庭・地域との連携



## 設問9 いじめの未然防止と早期解決



## 設問10 教職員の協力体制づくり



【設問11】改善に向けた取り組みが、保護者にも理解されてきている。教職員が心身ともに元気な姿で、今後も児童たちと向き合えるように慣例にとらわれることなく業務改善に積極的に取り組んでいく。

## 設問11 業務改善と働き方改革の取り組み

